

## カキ(柿)のカルテック施肥例

(10アール当り)

時期	目的	資材と施用法
収穫直後 (礼肥、 9月中旬～ 11月中旬)	根の強化、樹勢回復、秋の養分貯蔵、花芽の充実 (翌春の開花・結実と、新梢の充実を促す)	<b>濃縮酵素液</b> 3～5リットルを薄めて灌水(300倍前後) または 500倍で葉面散布(葉が薄く傷んでいる場合) ※肥料分が不足している場合には、濃縮酵素の灌水後に補給します。 硫 安 20kg 畑のカルシウム 20kg
冬肥 (休眠期、 12～1月)	なるべく深く土を改良、地力作り	<b>硫 安</b> 20kg(または複合肥料でチッソ成分4kg程度) <b>畑のカルシウム</b> 20kg(～40kg) pH5.5以上、6.0程度に <b>堆厩肥</b> 1トン(なるべく多く。または米ヌカ200kg以上) 堆厩肥・有機物を投入する際に、同時に硫安と微生物を投入します。 <b>ラクトバチルス</b> 600グラム(保水性向上・深層まで地力増強) もしも特に土壤に不足している成分があれば、この時に投入しておきます。(硫酸カリ20kgなど) ※施肥位置は、園全体に全面散布し、なるべく耕します。
春肥 (2月下旬～ 3月上旬)	春の栄養補給。 3～5月の花器形成・発根・発芽・開花・結実を促す。	<b>硫 安</b> 20kg(～30kg) <b>畑のカルシウム</b> 20kg(～40kg) ※カルシウムが花器を発達させ、受粉がよくなり、6月前半の落果が少なくなります。カルシウムで着果後1ヶ月間の細胞分裂・果実の組織形成が順調になるのでヘタが大きくなり、後々ヘタスキや果頂裂果を起しません。また新梢もたく充実させます。
着果初期 (6月上中旬)	果実の初期生長、根の働きを強化	① <b>濃縮酵素液</b> 500倍 葉面散布、または3～5リットル灌水 ② <b>カルテックCa液状</b> 500倍 葉面散布(細胞分裂促進)
玉肥 (6月中下旬)	夏の体力を準備。果実の肥大と、7月下旬の花芽分化に。	<b>硫 安</b> 20kg(～30kg) <b>畑のカルシウム</b> 20kg ※ここで施す肥料は果実に直接効くよりも、着果で消耗した樹体を回復させ、葉を厚くするためのバランスの良い栄養分です。
葉面散布 (6月下旬～ 8月)	葉の健康維持、栄養コントロール(定期散布は7～14日ごと繰り返し)	① <b>カルテックCa液状</b> 500倍 …葉に厚みをつけ、充実させる ② <b>濃縮酵素液</b> 500倍 …葉の機能強化、根を強くする ※原則として2種の散布を交互に行い、状態により加減します。
秋肥 (9月上旬)	秋の根の生長、後期の果実肥大に。	<b>硫 安</b> 20kg(～30kg) <b>畑のカルシウム</b> 20kg(～30kg) 着色・成熟の促進 ※特に肥大を重視するなら、硫酸カリ10kgを併用します。 <b>濃縮酵素液</b> …根から樹勢強化。 ※秋の根を強く出させ、果実肥大とともに、落葉期までの養分貯蔵・充実を促して、翌年からの樹勢を旺盛にします。 ※チッソ施肥量はあまり多くせず、根の力を増強して下さい。
収穫前 (30日～ 10日前)	果実の成熟促進	<b>カルテックCa液状</b> 500倍 葉面散布 ※7～14日間隔、2～3回